

## 朝鮮民主主義人民共和国（北朝鮮）

### 2001年の日朝貿易の現状

財務省発表によると、2001年の日朝貿易額は合計1,560億円となり、前年の499.8億円に比べ87.6%の増加となった。しかし、これは北朝鮮への米支援（国産米50万トン／1,122億円）が含まれたからである。支援米を除いた実質取引額は437.8億円となり、前年比12.4%の減少となった。2000年には前年比26.5%の大きな増加を実現したが、2001年は過去20年間で最少額を記録した1999年に続く小規模貿易となった。日本の輸出は171.6億円、北朝鮮からの輸入は266.1億円として日本が94.4億円の赤字であった。日本の対北朝鮮貿易赤字は87年以降続いている。日朝貿易の具体的な内容は以下のようにまとめる。

#### (1)北朝鮮からの輸入

輸入総額は2000年に比べ3.9%減少した。品目別にみると、主力の魚介類（アサリ、カニ、ハマグリ等）がほとんどを占める動物性生産品（輸入総額の47%）が過去最大である125.1億円（前年比29.8%増）を記録した。鉱物（天然の砂、マグネシア・クリンカー、無煙炭など）の輸入は前年比16.7%増加して26.9億ドルであった。一次産品の輸入額は157.6億円として輸入総額の59.2%を占めており前年比6.6%増加した。しかし、植物性生産品の輸入は前年の28.3億円から80.4%減少した5.6億円に止まった。松茸の輸入が21.8億円から4.3億円に激減し、穀物のワラモ口蹄疫の懸念のため輸入が激減したからである。

また、委託加工で輸入している繊維製品は71.9億円を輸入、前年比2.8%減少となり、最近3年間は横ばいとなっている。輸入額は過去のピークであった96年の半分程度に止まっている。また輸入総額に対するシェアは27.0%となっている。主な委託加工品目は男子用既成服（スーツ、ブレザー類など）であり、繊維製品全体の70.3%を占めた。

トランス、コンバーター類などの電気機器の委託加工は前年比23.6%減少し、2000年までの持続的な成長傾向が減少に変わった。

鉄鋼製品（銑鉄、鉄鋼のスクラップなど）、非鉄金属（アルミニウム、亜鉛）などの金属製品は過去北朝鮮からの主な輸入品であったが、90年代に北朝鮮の輸出能力が急減している。2000年は回復の姿を見せたが、2001年にまた前年比46.6%減少した10.5億円として過去20年間で最低水準を記録した。

#### (2)北朝鮮への輸出

支援米を除外した輸出総額は2000年に比べ22.9%減少した。主な品目は委託加工用の繊維類、重工業製品などである。輸出の最大品目は90年代以降服地を軸とする繊維類（48.5億円、輸出総額の28.2%）であることに変わりはない。1997年以降の繊維類の輸出減少トレンドは2000年に止まっており、2001年には前年比0.7%増加と少しではあるが反転した。

輸送機器は第2位の輸出品目である。輸出額は35.7億円と前年比17.2%減少した。乗用車と大型貨物車（総重量5トン以上）が輸送機器全体の80.4%を占めている。電気機器は23.4億円で前年比27.1%減少した。電気機器は委託加工用のトランス、コンバーター部品、発電機、電動機、磁石、通信・電力用ケーブルなどである。機械類は21.1億円で前年比13.7%増加した。ほぼ全ての機械品目が輸出されているが、中でも鉱山・建設用機械（19.1%）、内燃機関（10.3%）が高い割合を占めている。輸送機器、電気機器、機械類を合わせた重工業製品が輸出総額で占める割合は46.7%に上っている。

また、プラスチック、ゴム製品の輸出は90年代に減少の傾向が続いたが、2001年に前年比39.0%増加の9.2億円を記録し、90年代初の水準を回復した。

#### (3)評価と今後の展望

北朝鮮における1999年と2000年の連続プラス経済成長（韓国銀行の推定：其々6.2%、1.3%増）は、2000年と同じく2001年にも日本からの部品・資本財の輸入増加と日本への繊維製品・金属製品の輸出増加に繋がるのではないかと期待された。しかし、2001年の日朝貿易の結果は、日本から機械類とプラスチック、ゴム製品の輸入が増加したこと以外には、繊維類の輸入が横ばい、電気・輸送機器の輸入が減少となり、対日本輸入総額の減少となった（支援米は除外）。2001年には米朝関係の悪化が日朝関係にも悪影響を与え、貿易に悪い環境が生じたと考えられる。南北間の貿易は4億ドルを超えたが前年比5.2%減少した（そのうち商業性貿易は2.4億ドルと前年比3.8%減少）。その反面、中朝間の貿易は2001年上半期に前年同期比80%増加したことから2001年に大幅に増加したと推測される。これは、北朝鮮の北東アジア地域との経済関係の中で、中国との関係が強化されていることを表すものと考えられる。

(ERINA調査研究部客員研究員 李燦雨)

## 日朝貿易の推移（日本基準）

（単位：百万円）

	1986	1987	1988	1994	1995	1996	1997	1998	1999	2000	2001
<b>輸入</b>	29,273	34,886	41,588	32,719	32,108	31,703	36,535	28,704	22,845	27,695	26,612
繊維製品	1,289	987	2,036	9,414	12,180	13,498	11,535	8,451	6,798	7,400	7,191
植物性生産品	3,159	3,767	2,872	10,560	6,559	4,427	8,937	6,675	1,914	2,826	555
動物性生産品	6,216	7,598	7,622	4,459	5,962	6,118	6,185	6,790	8,161	9,644	12,513
鉱産物	4,683	3,343	4,261	2,631	2,312	3,354	3,213	2,775	2,003	2,306	2,690
金属製品	11,166	11,496	12,977	3,518	3,098	2,569	3,716	1,690	1,124	1,964	1,049
電気機器	0	0	0	834	761	940	1,772	1,688	2,176	2,494	1,905
その他	2,760	7,695	11,820	1,303	1,237	798	1,178	636	669	1,062	708
<b>輸出</b>	31,039	30,842	30,593	17,400	23,732	24,695	21,630	22,783	16,651	22,279	17,169
（日本産米支援含む）											129,417
繊維類	946	812	567	6,721	7,771	8,196	7,501	5,375	4,814	4,814	4,847
鉱物性生産品	578	436	350	0	424	2,908	1,596	1,798	543	1,030	67
輸送機器	3,873	2,254	2,486	1,535	1,727	2,845	3,932	4,381	3,351	4,305	3,566
電気機器	3,323	3,623	3,298	1,607	1,829	1,889	2,834	2,748	2,425	3,212	2,341
機械類	6,302	7,337	6,767	2,386	2,152	1,785	1,172	1,458	1,437	1,854	2,107
プラスチック	2,179	2,610	1,937	968	944	1,067	855	521	598	664	923
金属製品	4,421	5,330	2,902	952	860	1,003	671	459	552	559	594
再輸出（コメなど）	0	0	0	0	4,795	2,209	812	3,548	1,236	3,914	1,060
植物性生産品（玄米）											112,413
その他	9,417	8,440	12,286	3,231	3,231	2,793	2,258	2,497	1,694	1,928	1,498
<b>貿易計</b>	60,312	65,728	72,181	50,119	55,840	56,397	58,166	51,486	39,496	49,975	43,781
（日本産米支援含む）											156,028
<b>貿易収支</b>	1,766	4,044	10,995	15,319	8,376	7,008	14,905	5,921	6,194	5,416	9,443

（出所）財務省貿易通関統計